



小中一貫教育の推進

～ 学力の向上を目指して ～



あいさつ

深谷市教育委員会教育長 小柳 光春

深谷市立岡部中学校におかれましては、平成26・27年度の2年間にわたり、深谷市教育委員会の研究委嘱を受け、『小中一貫教育の推進～学力の向上を目指して～』を研究主題として研究を進め、その成果をここに発表されますことに、心から敬意を表します。

岡部中学校では、平成22年度から進めてきた小中連携の取組を更に進め、岡部中学校区の特徴を活かしながら、小・中学校9年間の学びと育ちの連続性を重視した小中一貫教育の推進に取り組んでいただきました。これらの取組により、「中1ギャップ」を緩和し、志を持ち、ねばり強く学習に取り組む生徒が育成されてきていると確信しております。

各校におかれましては、本研究の実践と成果を自校の教育活動の更なる充実につなげていただくことを御期待申し上げます。

結びに、岡部中学校校の研究に際し、御指導、御支援をいただきました先生方に厚く御礼申し上げますとともに、吉田校長先生をはじめ岡部中学校の先生方の御努力と、様々な面において支えていただきました保護者、地域の皆様の御支援に深く感謝申し上げます、あいさつといたします。

深谷市立岡部中学校長 吉田 勇

本校は、本年度で創立50周年を迎えた歴史と伝統ある地域に根ざした学校です。

学校の規模は、17クラス、生徒数522名と比較的大きく、岡部小・榛沢小・本郷小・岡部西小の4校と接続し、接続する数では深谷市内で最も多い中学校です。

岡部中学校区では、平成22年11月に岡部中学校区小中学校連絡協議会を立ち上げ、定期的な情報交換会や合同研修会、そして「親の心得五か条」、「家庭学習の手引き」の作成、配布など、小中連携の取組を積極的にすすめてきました。

そして、平成26、27年度深谷市教育委員会研究委嘱を受け、「小中一貫教育の推進～学力の向上を目指して」を研究主題に設定し、2年間、中学校区4小学校と共に研究と実践を重ねてまいりました。このような取組をとおして、岡部中学校区の子どもたちの「10歳の壁」や「中1ギャップ」の解消とともに、学力の向上を目指し、「志を持ち、ねばり強く取り組む岡部の子」の育成に積極的に取り組んでおります。本取組が、深谷市小中一貫教育推進事業として、少しでも参考になれば幸いに存じます。

結びに、研究推進にあたり、ご指導いただきました深谷市教育委員会に深く感謝するとともに、ご協力いただいた関係小学校、地域・保護者の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

平成27年11月13日（金）

深谷市立岡部中学校

1 研究主題

小中一貫教育の推進 ～ 学力の向上を目指して ～

2 主題設定の理由 ～ なぜ小中一貫教育なのか？ ～

いじめ、不登校、学力の低下など、今、学校教育を取り巻くさまざまな課題が山積している。本校の生徒は非常に落ち着いており、非行問題行動など生徒指導の問題は近年ほとんど見られないが、図1に示したように長期欠席（病気・不登校等）の生徒が非常に多いのが最重要課題である。また、図2は、本校が毎年4月に独自に行っているNRT標準学力検査であるが、学年間

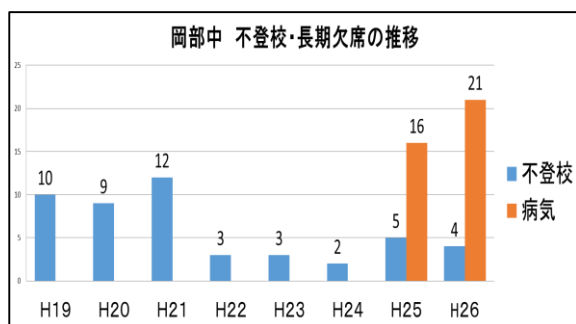


図1 不登校・長期欠席の推移

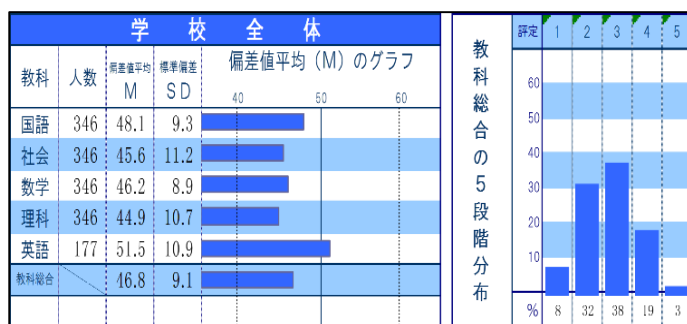


図2 NRT標準学力検査（1，2年対象 H27.4実施）

わずほとんどの教科で、全国平均を下回っており、下位層（2の段階）が非常に厚くなっているのが特徴的である。また、図3は中1を対象にした意識調査であるが、子どもの視点に立って接続期の不安や悩みを解消していくことも大切である。

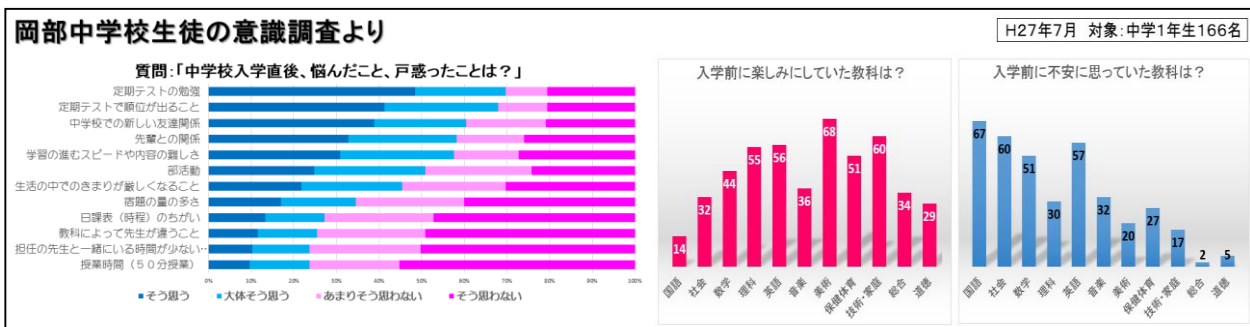


図3 1年生対象意識調査より（H27.7）

小中一貫教育の効果については、すでに小中一貫教育を進めている市町村対象の国の調査によるとほぼすべての市町村において成果が認められている。

以下に示すのは、中教審が示した小中一貫教育に期待されている5つの効果である。

- 9年間を見通した、**連続性のある学習指導**による 学力の向上
 - 中学生の**不登校**出現率の**減少**
 - 児童生徒の**規範意識**の向上
 - 異年齢集団での活動による**自尊感情**の高まり
 - 教職員の児童生徒理解や指導方法**改善意欲**の高まり
- （H24.7 中央教育審議会）

以上のように、『人間関係づくりを重視した「中1ギャップ」の解消』、『9年間を見通した学習指導によるつまずきの解消』の2点を具体的なねらいとして、9年間の学びの連続性を重視した教育の推進が本校の課題解決につながると考え、上記の主題を設定した。

3 研究の仮説

小・中学校9年間の学びの連続性を重視した教育を推進すれば、学力向上や長期欠席生徒の減少など学習指導上、生徒指導上の成果をあげることができるであろう。

4 研究の目的

小中学校9年間の学びや育ちの連続性を重視した教育の実践
(指導内容をつなぐ・指導方法をつなぐ)

＜3つの視点＞

- ・学力の向上
- ・いわゆる「中1ギャップ」の緩和
- ・教職員の指導方法への改善意欲の向上、教科指導力・生徒指導力の向上

5 岡部中学校区小中一貫教育グランドデザイン

平成26、27年度深谷市教育委員会委嘱研究
「小中一貫教育の推進～学力の向上を目指して～」

岡部中学校区小中一貫教育グランドデザイン

岡部小・本郷小・榛沢小・岡部西小・岡部中

深谷の子「6つの誓い」

～夢とところざしをもち、まごころと
思いやりのある深谷の子～
○私は、夢に向かって努力します。
○私は、毎日勉強します。
○私は、たくさん挑戦、体験します。
○私は、すすんであいさつします。
○私は、脱いだくつをそろえます。
○私は、心のこもったことばをつかいます。

目指す児童生徒像

志を持ち、ねばり強く取り組む岡部の子

＜岡部中学校学校教育目標（7年生～9年生）＞

- 志を持ち、自ら学ぶ生徒(知)
- 豊かな心を持ち、礼儀正しい生徒(徳)
- 健康で、ねばり強く取り組む生徒(体)

小中一貫教育で期待される効果

- 9年間を見通した、連続性のある学習指導による学力の向上
- 中学生の不登校出現率の減少
- 児童生徒の規範意識の向上
- 異年齢集団での活動による自尊感情の高まり
- 教職員の児童生徒理解や指導方法改善意欲の高まり
(H24.7 中央教育審議会)

小中学校9年間の学びや育ちの連続性を重視した教育の実践（指導内容をつなぐ・指導方法をつなぐ）

カリキュラム研究部

- 岡部中学校区小中一貫教育カリキュラムの作成
- つなぎ教材の作成と実践
- 授業研究会の実施

交流推進部

- 児童、生徒間交流（授業参観、部活動体験、学習支援等）
- 教職員交流（合同研修会、授業参観、巡回相談等）
- 保護者、地域の交流推進（学校応援団、PTAの交流）

生徒指導部

- 「意志の日」の推進
- 小中連続した生徒指導の実践
- 「家庭学習」の手引きの実践
- 不登校対策（長欠ゼロを目指した取組）

【5校職員全体研修会】 学力向上、生徒指導、人権教育、特別支援教育等の研修会を5校合同で行う。懇親会も実施。（8月）

児童・生徒の交流活動

- 6年生による中学校授業参観・清掃体験（11月）
- 6年生による部活動体験（12月）
- 中学校合唱コンクールの参観（11月）
- 陸上部員、バスケ部員による小学校出前指導

小中の接続を円滑化・充実させる取組

- 中1ギャップに関する児童・生徒意識調査
- 小・中兼務教員による情報連携
- 教育支援担当学校訪問時の相互授業参観
- 小中職員の定期的な情報交換
- 不登校対策小中連携シートの活用

小中一貫教育を推進する主な組織

- 小中一貫教育推進協議会（3部会）
- 5校連絡協議会
（校長部会（毎月）・教頭部会・教務主任部会）
- 5校PTA連絡協議会（年3回）
- 岡部中学校区学校応援団連絡会議（年1回）

前期 1, 2, 3, 4年(基礎充実期)

中期 5, 6, 7年(活用期)

後期 8, 9年(発展期)

小学校6年間 1, 2, 3, 4, 5, 6年

中学校3年間 7, 8, 9年

小1プロブレム

10歳の壁

中1ギャップ

6 岡部小中一貫校 イメージ（仮称：こすもす学園）



7 研究組織

H27年度 岡部中学校区 小中一貫教育推進事業 組織一覧

推進委員会

・目指す生徒像、重点目標の設定
・日程調整
・推進委員会の開催
・各部の連絡調整

岡部中学校	岡部小学校	岡部西小学校	本郷小学校	榛沢小学校
吉田 勇	賀輪 進司	加藤 修	栗原 孝子	渋谷 肇彦
平井 慶益	嶋田 富男	新島 稔二	小谷野聖二	黒沢 みどり
金子 裕一	市川 武	飯島 修	大澤 好明	田中 志保
高橋 尚希				

カリキュラム研究部

・岡部中学校区小中一貫カリキュラムの作成
・つなぎ教材の作成
・授業研究会の実施

交流推進部

A「児童、生徒交流（授業参観、部活動体験、学習支援等）」
B「教職員交流（授業交流、合同研修会）」
C「保護者、地域の交流の推進（岡部中学校区学校応援団との連携）」

生徒指導部

A「生徒指導」の共通理解・共通実践の推進
B「家庭学習」の手引きの実践
C「不登校対策（総欠席数を減らす取り組み）」

	岡部中	岡部小	岡部西小	本郷小	榛沢小
国語	堀越 教弘	増野千賀子	大谷 有香	金子あづさ	徳世八千代
社会	小杉 元	柴田 剛気	小林 由美子	市川 晃来	(山本 誠)
算数・数学	梨木 信行	上田 幸奈	賀輪真由美	桑原 照代	土田 浩子
理科	鶴巻かのう	浅香 恵	加藤 卓磨	(水原 準)	(平松美誠)
外国語・英語	片桐美和子	吉田 遼平	池内 瑞希	(佐澤カオリ)	後藤さや香
音楽	大澤 裕美	吉村 幸子	田沼 和美	(小野塚恵仁)	(土田浩子)
園工・美術	中澤 信宏	杉田小百合	小丸 文香	山岸佐知子	(関口雅美)
体育・保健	新井 知章	須藤喜美子	松本 美輝	笹岡 宏之	山本 誠
家庭・技家	新井 靖広	山口登志子	(金子 真希)	本山 貴子	(後藤さや香)
生活・総合	岡田 希望				
生活・総合	清田 恵理	石田 三枝	小澤利恵子	石橋 恵子	(下山恵子)
特活	直井 海斗	新井 智咲	金子 真希	木村えりか	平松美誠
道徳	西河由起子	川野亜希子	(高野訓子)	谷脇由利奈	(田中志保)
特別支援	清水 正樹	松嶋 友里	高田 義治	小澤 史枝	吉野 治美

岡部中	岡部小	岡部西小	本郷小	榛沢小
A永島 大輔	A小林 正史	A高野訓子	A佐澤カオリ	A山本 誠
A大久保智司				
B笠原 良太	市川 武	B飯島 修	B大澤 好明	B関口 雅美
B高橋亜紀子				
C浅見 伸男				
C小暮 正一	瀧ヶ早苗	C櫻井 理那	C水原 準	C市川 秀男

岡部中	岡部小	岡部西小	本郷小	榛沢小
A深瀬 英昭	佐々木陽幸	A横山 美紗	A小野塚恵仁	A田中 志保
A奥原 利也	小暮由美子			
B塚越 通恵	B高橋久美子	B小林由美子	B嶋田 久美	B下山 恵子
B山田 幹男				
C柴崎真奈美	林 宏枝	C田島理恵	C中澤 千晶	C押切 初子
C萩原 明				
C横 美帆				

8 各部の取組

(1) カリキュラム研究部

① 「岡部中学校区小中一貫教育カリキュラム」の作成



- ・国語から特別支援教育までの全**13教科**等を作成。
- ・「小中一貫教育カリキュラム深谷モデル」をベースに作成。
- ・9年間を**前期(4年)・中期(3年)・後期(2年)**に分ける。

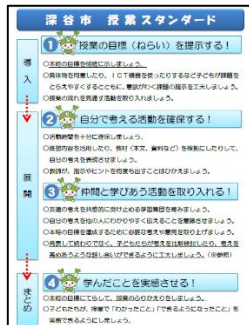


※子どもの発達
や学習の特性
等を考慮して

- ・岡部中校区の児童生徒の実態や発達特性を踏まえて作成。
- ・**指導内容や指導方法をつなぐ**ための手立てを記述。
(年間指導計画に小中一貫教育の視点とつなぎ教材を明記)

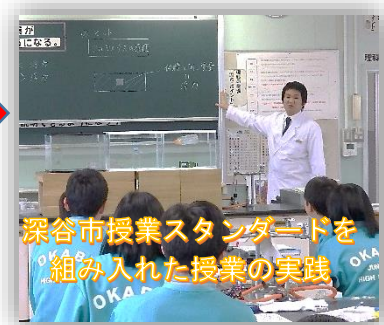
② 岡中全教員による授業改善 3つの手立て

その1 深谷市授業スタンダードの活用(指導案にも明記)

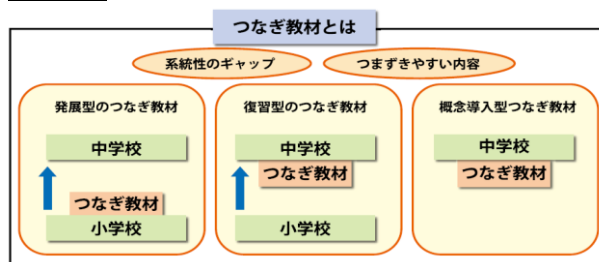


★ 深谷市授業スタンダードの視点

深谷市立岡部中学校
A 授業の目標(ねらい)を明確にする
A-1 ○本時の目標の明確化
A-2 ○捉えやすく、意欲がわく課題提示の工夫(具体物の用意・ICT機器の活用)
A-3 ○授業の流れを見通す活動
B 自分で考える活動を確保する
B-1 ○活動時間の十分な確保
B-2 ○自分の考えを表現(既習内容を活用して・教材[本文、資料など]を根拠にして)
C 仲間と学びあう活動を取り入れる
C-1 ○友達のことを共感的に受け止める学習集団の育成
C-2 ○自分の考えを他の人に分かりやすく伝える
C-3 ○本時の目標を達成するために必要な考えや意見の取り上げ
C-4 ○子どもたちが考えを比較検討したり、考えを高め合うような話し合い
D 学んだことを実感させる
D-1 ○本時の目標にたっした授業のふりかえり
D-2 ○「わかったこと」「できるようになったこと」の実感



その2 つなぎ教材の作成と実践



つなぎ教材を作成し、授業で実践

3 「つなぎ教材」について。

種類	発展型	復習型	概念導入型
単元計画上の位置づけ	本単元のすべての授業	配当時間	5分(1単位時間につき)
目的	・小学校で学習した都道府県の名称と位置及び前単元で学習した県庁所在地の名称の習熟をはかり、生徒が学習内容とその位置をつなげて考えられるようにする。		
必要性	・3、4年生では、都道府県の名称と位置を自己図上で指図できるようにすることが内容として取り上げられている。また、中学校ではこれと関連付けて、県庁所在地も取り上げる。これらの学習内容は非常に膨大であり、短期間で習熟は難しい。そこで、日本の都道府県の単元全体を通して、「九州地方」「中国・四国地方」など小単元の地方ごとに確認する時間を確保することで、習熟が図られ、単元の学習もスムーズに進めることができる。		
つなぎ方	・フラッシュカードを使って正しい知識を定着させるグループ活動の展開		

【深谷市 小中学校9年間の学びの連続性を重視した教育の推進】

⇒ 系統性のギャップや時間的なギャップ、つまづきやすい内容等の段差を小さくするために、単元計画の中に組み込むべき教材(指導内容)を深谷市では「つなぎ教材」と呼んで研究を進めている。

その3 「生徒による授業評価」の活用による授業改善

項目	平均値
1. 先生は一生懸命勉強を教えてくれた。	3.89
2. 先生の話し方ははっきりしていて聞きやすかった。	3.84
3. 先生が黒板に書いたことは、学習内容を理解するのに役立った。	3.82
4. 先生の説明はいていしくて分かりやすかった。	3.81
5. 先生が黒板に書いたことは見やすかった。	3.81
6. 先生が用意した教材やプリントなどは学習内容を理解するのに役立った。	3.79
7. 何を勉強したのかよく分かる授業が多かった。	3.77
8. 先生は勉強の始まる時間や終わる時間を守っていた。	3.77
9. 動き回り活動したりする時間がきちんとあった。	3.74
10. 教室内は整理整頓され、勉強しやすかった。	3.74
11. 先生は私たちの考えや意見をよく聞いてくれた。	3.69
12. 授業内容が分かった。	3.69
13. 私は勉強に一生懸命取り組んだ。	3.67
14. 先生はたくさんの方が発表できるように工夫していた。	3.65
15. 先生は、みんなの考えを聞き取りながら、教えてくれた。	3.60
16. 先生はわからないところやむずかしいところをきちんと説明してくれた。	3.58
17. 授業内容がおもしろかった。	3.55
18. 宿題の量はちょうどよかった。	3.46
19. 自分の意見や考えを発表しやすい雰囲気だった。	3.36
20. 授業中進んで発表することができた。	2.75

授業改善プラン 生徒の意見を教師の授業改善へ生かす

要改善点	改善プラン
【要改善1】 「授業中進んで発表することができた。」の平均値が2.75	・生徒が自分の意見をじっくり考える時間を増やし、自信を持って発言できるようにする。(意見をノートに書かせたり、周りの人と相談させたりする)
【要改善2】 自分の意見を考える時間をもう少し増やしてほしい。	・1つ1つの発言を大切に工夫をすることで発言意欲を高める。(黒板に生徒の発言メモ欄をつくる)
【要改善3】	・1週間の授業(1クラス4時間)でワークに取り組み

(2) 交流推進部

①『小6児童による中学校訪問』(発表会当日 H27 年度版を公開)

【開会行事】



【授業参観】



【無言清掃体験】



【児童の感想】中学生の授業を見て、小学校の授業とは全く違うと思いました。誰一人しゃべらず、授業に集中していてとても中学生らしく、すごいと思いました。私たちも入学し、中学生になったら、見習いたいと思いました。

【児童の感想】自分で仕事を見つけ、積極的に掃除をしていてとてもビックリしました。中学生になったら私もがんばりたいと思いました。一言もしゃべらない中学生を見習いたいと思いました。

【中学生にインタビュー】



【全力校歌見学】

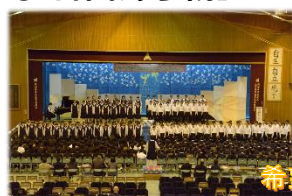


【児童の感想】私は最初、とても緊張していました。けれど、質問をするときに、とてもやさしくしてくれたので安心しました。中学校がとても楽しみです。

【児童の感想】小学校だと、高学年になるとだらだらと歌ってしまいがちな校歌ですが、中学3年生があんなに全力で校歌を歌っていて感動しました。私もこの校歌を歌ってみたいと思いました。



②『音楽祭参観』



希望者による音楽祭参観

③『部活動体験』



中学校の教師や生徒の指導による部活動体験

④『生徒による出前指導』

※小学校5年生の行事「親善球技大会」や小学校6年生で行事「親善運動会」に向けて、各小学校で行われる練習で陸上部やバスケットボール部の中学生が出前指導を行う。



小学校5年生へ球技指導



小学校6年生へ陸上指導

⑤教職員交流『合同研修会』



小中の情報連携・協同してカリキュラムづくり

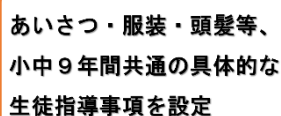
⑥教職員交流『学校訪問の授業参観』



小・中の教職員がお互いの授業や子どもたちの様子を参観

①小中連続した生徒指導の実践

【岡部中学校区 児童生徒生活のきまり】



②家庭学習に関する共通実践

【家庭学習の手引き】 【家庭学習メニュー】



岡部中学校校区共通で
毎月14日は「意志の日」
↓
ノーゲーム・ノーテレビDAY

[illegible]

平成 27 年 5 月 13~14 日

- ・みんなの心が一つになって、みんなで喜んだ あの瞬間は最高の思い出です。
- ・一生懸命やる中でクラスの絆が深まった気がします。
- ・帰ってからのクラスの雰囲気がすごくよくなったように感じました。

アドベンチャー教育（人間関係づくり）の実践

⇒ 指導者は教員

- ・アドベンチャー教育の方法は、学級開きや授業でも活用できる。
- ・教育効果を考え、ねらいに沿った活動声かけを学ぶ必要がある。

⑥「アドベンチャー教育」 全職員研修会

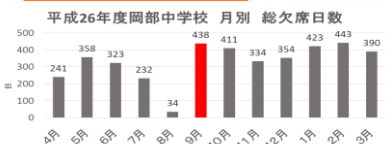
平成 27 年 3 月 23 日



中学校の加配教員が小学校
4校で勤務する時間を設け、
小学校教員とTTを実施

夏休み明けの欠席を減らすための取組

夏休み明けの欠席を減らすための取組

[illegible]

児童生徒や学級集団の理解を図るため、
全学年を対象に年間5回実施

9 研究の成果と課題

【成果】

○中学校区の小学校教員と協同して小中一貫教育カリキュラムを作成したことによって、9年間の学習内容や指導方法のつながりを意識した学習指導を展開することができた。

○中学1年生宿泊体験学習やアドベンチャー教育の手法を用いた教育活動が、生徒の人間関係づくりを円滑にする上で有効であった。

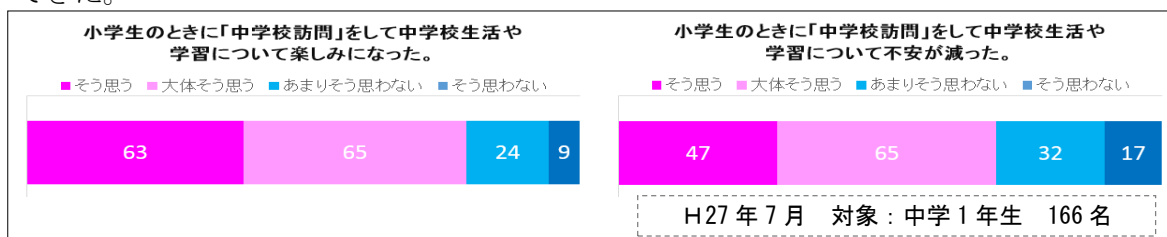
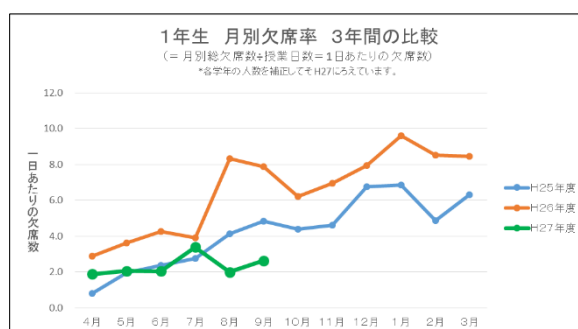
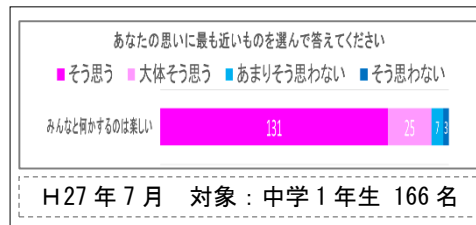
○カリキュラムの作成など小中の教職員が共同作業することにより、互いの学校文化や課題等を理解することができた。

○小中兼務教員を中心とした小中情報連携やアセス・小中連携シートの活用、さらに夏休みの全校登校日、体育祭種目の工夫などにより、中学1年生において欠席率の大幅な減少がみられる。

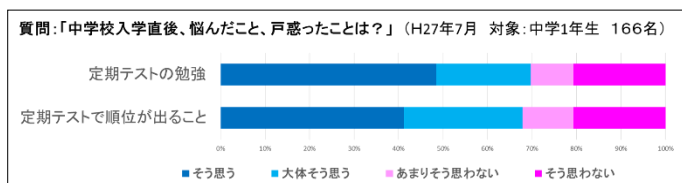
○生徒指導の共通理解・共通行動により、学習規律の連続性を高めることができた。

○「家庭学習のてびき」などを作成し、中学校区の5校で家庭学習マニュアルの共通理解が図られた。

○各種の児童・生徒交流等により、子どもたちが感じている「中1ギャップ」を緩和することができた。



▲定期テストで順位が出ることで大きな「中1ギャップ」になっているということがわかった。



【今後の課題】

★小中の指導方法に連続性をもたせること

★小中の教職員が連携するための時間の確保

★評価、評定の連続性の確保
(定期テストの順位や通知表の5段階)

